

おはようございます。ただ今ご紹介いただきました石黒でございます。今日は松下電器の65周年記念の催しに講師としてお呼びいただき、大変光栄に思っております。こういった記念講演はもっと有名な方に依頼なされるのが一般的であります、私のような無名の人間にこのような機会を与えて下さる意図をいぶかしく思いながら、折角のことと引き受けさせていただきました。いずれにしても私が生きてきた40数年の話を断片的にすることができるのですが、いくらかでも参考になればと思っております。今日お話しすることを一応取りまとめればいくつかのテーマになると思います。

創造性、オリジナリティ originality のこと、質と量の多面性、見えないものとの対話といったものになります。

まず、私のアメリカでの勤務から話を始めましょう。私は1968年から1970年まで丁度2年間ニューヨークの設計事務所シスカ・アンド・ヘネシーに勤めていました。ここに勤めるにあたっては、その前約1ヶ年間かかり、その会社とは最初にあるメーカーを通して、コンタクトし、その会社と手紙のやりとりをして、給与、条件を取り決めて出発しております。その間に論文を送ったり、図面を送ったりして、先方にアピールしたわけです。そして先方より採用OKが出され、当時アメリカ領事館を通じて入国許可証(VISA)が公布されたのです。

私はその時初めて飛行機に乗り、勿論初めてアメリカへ渡ったのですが、当時の日本航空は、ホノルル迄の便で、日付変更線を通して証明書をくれました。当時は持ち出しが500ドル日本円2万円の頃です。私は、ニューヨークに一人の友人もおりませんでしたし、勿論勤めた会社は外人で構成され、一人の日本人もおりませんでした。とりあえずホテルニューヨーカーに泊まりましたが、ホテルから会社に電話連絡をして、ニューヨーク到着したことを告げ、入社の日を取り決めました。勿論電話は英語です。日本人の英語はほとんど解らないが、私の英語は基礎がよくできているので、練習すればすぐにうまくなると言われました。何処で英語を学んだかといいますと、NHKの英語講座初級と中級を2年間続けてきていたことが役に立っていたのです。それでも、日本を離れる前にあるアメリカ人の先生のところに2、3ヶ月習いに行きましたが、特に注意を受けず、唯、会話の時間を持っていただけでした。

一つだけ心に留めて欲しいと出発前に言われたのは、『教え子の何人かがアメリカに行ったが、帰ってくると、ひどく悪い英語になってくる。それはアメリカで付き合った人からの影響であろう。私の英語は、今は、悪くないので、アメリカへ行ったら親しい友人を見つけて、必ず自分の悪いところを指摘してもらいなさい。アメリカ人は、通じれば直してくれないので』と聞きました。

私の英語の基礎力は、毎朝6時半からの30分間のNHKテレビ英語会話を2年間見聞き続けたことで作られていました。その他、リングフォンのテープの50レッスンを聴くことでアメリカの風景がイメージとして出来上がっていました。その結果、個人レッスンで南山大学のアメリカ人に英語会話を習いに行き始めた直ぐに、こんなことが起こりました。